

# 埋文

## とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2024.6.28

VOL.

167



加納南9号墳出土品（氷見市加納）  
《須恵器筒形器台》

器台は、お皿のようになっている上部に、壺などをのせる台と考えられています。写真の器台は胴の部分が長く、筒状であることから、筒形器台とよばれます。勾玉形の粘土がお皿の外側に付いていたり、胴部や脚部に長方形や三角形の透かし孔があいていたり、櫛状の工具で波状の模様を施すなど、装飾豊かに仕上げられています。

とっておき埋文講座①●企画展「見て、知って！とやまヒストリー 2024」

②●新指定 富山県指定有形文化財（考古資料）

埋文あらかると●刊行！富山県出土の重要考古資料第16集 とやまの弥生時代墳墓・祭祀遺跡出土品

Center Flash●夏の催しガイド2024

古写真発掘！●東中江遺跡 南砺市東中江

富山県埋蔵文化財センター

# 企画展「見て、知って!とやまヒストリー 2024」

とっておき埋文講座① —富山県の旧石器時代から近現代までの歴史を発掘出土品から学ぶ—

## はじめに

この企画展は、主に歴史学習を始めた小学6年生や中学生向けに、県内の遺跡から発掘された出土品を通して歴史への関心を深めてもらうことをねらいとしています。さらに、歴史や考古学に詳しい大人にも興味をもってもらえるよう、数多くの出土品の中から特徴的なものを厳選して展示しました。

## 特設コーナー

今年度の特設コーナーは「とやまの何だコレ!?パワーアイテム」です。祭りやまじないに使われたり、願いを込めて作られたりした出土品を“パワーアイテム”と呼び、当センター所蔵の出土品の中から、各時代のパワーアイテムを実物と共にパネルで紹介しています。また、実際に石棒に触れられるコーナーや、来館者に自分の願いにシールを貼ってもらうことで、現代人の願いの傾向が見えるコーナーを設け、楽しみながら学べるように工夫しました。



それでは、各時代の見どころについて、簡単に紹介します。

## 旧石器時代

人類が石器を使い始めた旧石器時代の遺跡は、県内で約140遺跡あり、今回は直坂I遺跡(富山市(大沢野町))、立美遺跡(南砺市(福光町))の石器(県指定有形文化財)等を展示しています。直坂I遺跡の接合資料は、石の割れ方から当時の石器の作り方が分かる重要な資料です。立美遺跡の石器は約1,350点が見つかっており、その約9割が黒曜石製で、立美遺跡から直線距離で約540kmも離れた青森県深浦産であることがわかっています。



## 縄文時代

この時代の名前の由来となった縄文土器は、草創期を除いた早期・前期・中期・後期・晩期のものを展示しています。早期から順に見ていくと、器形や文様が時代によって大きく変化していることが分かります。

また、長山遺跡(富山市(八尾町))から出土した土偶には「おさげ髪」を表現したものがあり、縄文人の髪型を知ることができる貴重なものです。

石器には石棒や石刀、石冠など、用途不明のものも見られます。国の重要文化財に指定されている境A遺跡の大型石棒は、玉や三叉文と言われる丸や三角の彫刻が施されています。豊穰や豊作、子孫繁栄などを願う祭りに使われたと考えられており、縄文人の精神文化に深く関わる祈りの道具です。



## 弥生時代

弥生時代は大陸から稲作が伝わった時代です。稲作の始まりによって、食料を生産できるようになった一方、貧富や身分の差、争いが生まれました。

江上A遺跡(上市町)の炭化米や木製の農具、下老子笹川遺跡(高岡市)の石包丁など、稲作に関連する出土品を展示しました。

弥生土器は縄文土器に比べ形や文様がシンプルで、米を炊く際に熱効率がよい器形へと変化しています。



えじり 江尻遺跡(高岡市)の木製短甲たんこうは富山県唯一の貴重な出土品です。惣領浦そうりょううら之前遺跡(氷見市)から出土した赤い漆が塗られた木製の盾や剣、刀は、実際の戦いではなく、祭りの道具として使われたものです。戦いを思わせるような勇ましい祭りだったのではないのでしょうか。



## 古墳時代

古墳時代では、豪族などそれぞれの地域で権力のある人が、力の象徴として大きな墓(=古墳)を造りました。古墳からは鉄刀や銅鏡、玉類(アクセサリ)など、様々な出土品が見つっています。

また、この時代の土器は弥生土器から続く土師器に加えて渡来人によって伝えられた須恵器が登場します。加納かのう南古墳群(氷見市)の須恵器筒形器台や壺などは、古墳の葬送儀式で使われたもので、昨年新たに県の有形文化財に指定されました。



## 古代

この時代になると、律令にもとづく政治が行われるようになり、文字資料が急激に増えます。今回は大河ドラマ「光る君へ」にちなんで、女性の名前や役職名が記されている墨書土器(墨で文字を書いた土器)や木簡を展示しました。

また、墨で疫病神の顔を描いた人面墨書土器じんめんぼくしよも見つかっており、中に息を吹き込むことで病や邪気を封じ込め、川へ流したと言われています。

仏教が広まったのもこの時代です。石名田木舟遺跡(高岡市・小矢部市)の阿弥陀三尊像は、仏像を彫った型に粘土を押し付け焼いた埴仏と呼ばれるもので、兵庫庫で同じ型から作られたものが見つかりました。



## 中世

中世になると武士が登場します。刀の鐔や切羽、小柄など武士に関する出土品も出てきます。また、鉄砲の部品である火鉄や鉛玉も出土しています。

六道銭は安吉遺跡(射水市)から出土したものです。人が亡くなると棺桶に6文を入れ、三途の川の渡し賃とするそうです。

鰐口わにぐちは、神社の鈴と同じで、「参拜にきました、これからお願いごとや願いがかなったことのお礼をしますので、お聞きください」と仏様に合図するためのものと言われています。



## 近世

この時期は織田信長や豊臣秀吉の登場により、戦国時代が終わります。秀吉が天下統一した後、朝鮮を攻めた際に連れてこられた職人たちが日本に焼き物を伝え、伊万里焼や唐津焼などが始まり、全国へ流通しました。県内各地の遺跡からも多く出土しています。

徳川家康が江戸幕府を開いてからは政治が安定し、産業や経済の発展をもたらしました。宿場や街道が整備され、旅に出る庶民も増えました。越中(富山)でも、浄土真宗の信者が親鸞

れんによ や蓮如の旧跡をたどる二十四輩にじゅうよはいの巡拝じゆんが人気でしたが、信仰に駆られていくというよりも物見遊山的なものが多かったようです。その時に持って行った「往来手形之事」を、富山県公文書館よりご提供いただき、展示しました。名前や住所等の他に、旅の途中で亡くなった時の弔い方等が記されています。

また、信仰の対象として有名だった立山を訪れる人も増えました。その途中立ち寄ったと言われるのが立山温泉です。富山県立図書館からお借りした「立山温泉敷地之図」には多くの旅人を癒した立山温泉内の様子が描かれています。



## 近現代

旧県会議事堂跡れんがの煉瓦や薬瓶、麦酒瓶、小銃の玉、戦時統制下の陶磁器、どくりつほへいだいほちじゆうごだいちりただいたいちろうしよ「独立歩兵第八大隊森田大隊長所蔵書類」などを展示しています。これらの展示品は長い歴史の中では最近のものですが、戦争の記憶を含め、未来へ伝える大切な文化財です。



## 終わりに

この企画展を通して、各時代を生きた人々を身近に感じると共に、「ふるさと」とやまの歴史(とやまヒストリー)について興味・関心を深める一助になればと願います。

ぜひ当センターへお越しください。ご来館をお待ちしています。

(金谷 奉賢)

# 新指定 富山県指定有形文化財(考古資料)

## とっておき埋文講座②

### 古墳時代の考古資料では初めて

令和6(2024)年1月12日に、阿尾島田A1号墳・朝日長山古墳・加納南9号墳出土品が県有形文化財(考古資料)として指定されました。

これまで考古資料では、平成29年に旧石器時代の直坂I遺跡・ウワダイラI遺跡・立美遺跡出土品が指定されており、今回の資料は、古墳時代のものとして初めての県指定有形文化財となります。



### 阿尾島田A1号墳出土品

指定品は、第1主体部から出土した資料です。

阿尾島田古墳群は前方後円墳・方墳・円墳からなる古墳群で、富山湾を見下ろす、氷見市阿尾地内の丘陵上にあり



阿尾島田A1号墳遠景(北西から)  
氷見市立博物館提供

ます。

A1号墳は古墳群の中でも最も高所にあり、規模は前方後円墳では県内最大である全長約70mです。

平成13(2001)~15(2003)年度に富山大学が発掘調査をし、2基の埋葬施設(第1主体部・第2主体部)を確認しました。第1主体部は後円部墳頂の中央にあり、武器(槍・長剣・短剣・鏃)、農工具(刀子・鑿・鉋・斧・鍬鋤先)等の鉄製品や玉類(管玉・ヒスイ垂玉・ガラス小玉・ガラス連玉・錫小玉)等の副葬品が、埋葬当時の位置を保って出土しました。特に玉類は棺の内と上に散らばった状態で見つかっています。これは首飾りの緒を切って棺の内部と蓋上に撒いたものと考えられ、葬送儀礼を研究する上で貴重な資料です。

出土品は形状を留めるものが多く、質・量ともに豊富です。このうち、鉄槍と鉄鏃、錫小玉は県内の前期古墳として初めての発見です。また槍や短剣、柳葉式鉄鏃等、定型化したものがある一方、長剣・鉄鏃・鑿は畿内ではあまり見られないものであり、ガラス連玉・錫小玉は北部九州や丹後地方に類例が見られます。これらは畿内を介さないルートで持ち込まれたと考えられ、広



阿尾島田A1号墳出土玉類  
氷見市立博物館提供



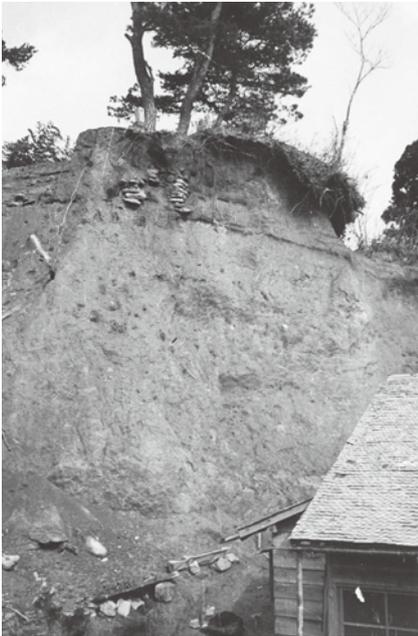
阿尾島田A1号墳出土鉄製品  
氷見市立博物館提供

域にわたる地域間交流・交易を示す貴重な学術資料です。

### 朝日長山古墳出土品

朝日長山古墳は氷見市朝日本町の標高約25mの丘陵上にあった前方後円墳で、規模は古墳時代後期として県内最大の全長約43mと推定されます。

埋葬施設は北部九州に系譜を辿ることができる竪穴系横口式石室で、県内最古の横穴式石室です。昭和25(1950)年4月に土砂採取地で氷見高等学校歴史クラブによって発見され、昭和27(1952)年に石室の発掘調査が行われました。昭和44(1969)年には埴輪が発見され、続く昭和47(1972)年には氷見高等学校歴史クラブと氷見市教育委員会によって石室残存部と埴輪出土地、埋葬施設の発掘調査が行われました。考古学で必要とされる十分な記録がなされており、本県の学史上高く評価されます。なお、埴輪は県内



朝日長山古墳

氷見市立博物館提供

木の下辺りに、ハの字状に組まれた石室の石が露出しているのがわかります。

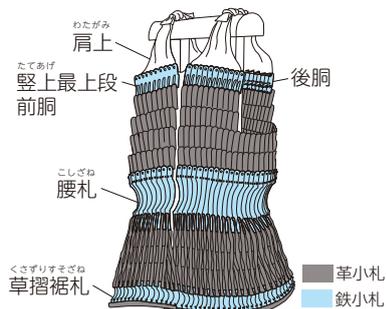
で初めての発見となりました。

石室内部からは、鉄製品・金銅製品・玉類・須恵器・土師器といった質・量ともに豊富な副葬品が出土しています。特に冠帽や剣菱形の杏葉は、朝鮮半島南部(伽耶)に系譜を求めることができます。被葬者が古墳時代後期のヤマト政権(前方後円墳体制)に属しながらも主体性が認められるなど、中央と地方の関係を示す貴重な資料です。

### 加納南9号墳出土品

加納南9号墳は標高62~63mの尾根上に位置する直径19.3mの円墳です。平成18(2006)年、能越自動車道建設に伴い富山県文化振興財団が発掘調査を行いました。

出土品には、埋葬施設からの武具(挂甲)・武器(鉄刀・鉄鉾・鉄鎌)・農工具(鉄斧)、墳丘上の馬具(轡)・土器(須恵器筒形器台)等があり、小型古



挂甲復元図



朝日長山古墳出土品

氷見市立博物館提供

墳としては質・量とも豊富です。

埋葬施設は割竹形木棺で墳丘中央部に位置します。棺内は、頭を東にして遺体を安置し、体に沿うように右手側に鉄刀、足元に鉄鎌、挂甲が副葬されたと考えられています。

出土品のうち、完形に復元できる須恵器筒形器台と挂甲は県内初の発見です。特に挂甲はヤマト政権から被葬者に直接供給された当時最先端の武具で

あり、「加納南9号類型」ともされる古墳時代甲冑研究の貴重な資料です。

加納南9号墳は直径20mに満たない小型の円墳ですが、これらの出土品は古墳時代後期にヤマト政権の勢力が地方の小規模古墳被葬者にまで浸透していたことを示すものであり、古墳時代の社会関係を示す貴重な一括資料です。

(青山 裕子)



加納南9号墳出土品



加納南9号墳出土挂甲

# 埋文 あらかると

## 刊行! 富山県出土の重要考古資料第16集 とやまの弥生時代墳墓・祭祀遺跡出土品

当センターは、平成19年度から、富山県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として「富山県出土の重要考古資料」を15冊刊行してきました。今回は第16集として、弥生時代の墳墓・祭祀遺跡の出土品を紹介します。

現在、県内で確認されている弥生時代の遺跡は約400遺跡が確認されています。このうち墳墓・祭祀関連の遺構、遺物が発掘調査された資料のなかから、当センターの所蔵する6遺跡155点の出土品を選定しています。

墳墓には射水市の囀山遺跡と南太閤山Ⅰ遺跡があります。囀山遺跡では方形周溝墓や埋葬施設の土壇がみつきり、県内最古級の鉄剣が出土しました。

南太閤山遺跡では方形周溝墓が群を成してみつきり、有力家族墓と考えられます。墓の主体部からは勾玉や管玉のほかガラス玉が出土しました。

祭祀遺跡には上市町の中小泉遺跡、氷見市の惣領浦之前遺跡、高岡市の江尻遺跡、蔵野町東遺跡があります。

惣領浦之前遺跡からは祭祀用に孔がつけられた土器のほか、赤漆で精巧に装飾された盾や肩甲が出土し、祭祀をつかさどった支配者層の存在がうかがえます。

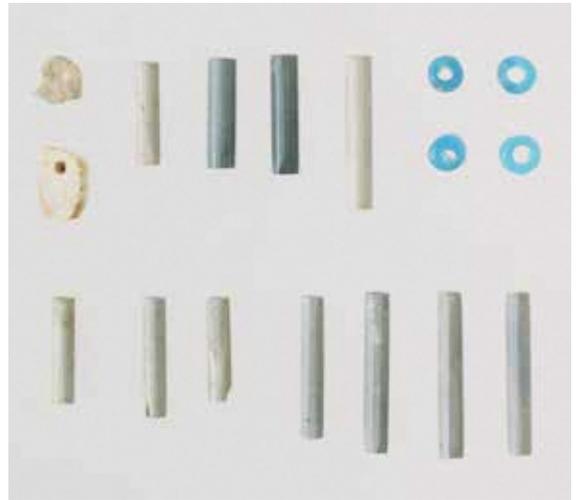
蔵野町東遺跡では水辺に大量の土器や木製品が廃棄された状態で残されていました。弥生時代後期から古墳時代にわたって廃棄された遺物のなかには意図的な配置や破損させた土器が数多くみられ、祭祀行為の変遷を考えるうえで大変興味深い資料です。

本書が富山県の貴重な文化財に興味を持つきっかけとなり、より関心を深めていただければ幸いです。

(町田 尚美)



囀山遺跡出土品



南太閤山Ⅰ遺跡出土品



惣領浦之前遺跡出土品



蔵野町東遺跡出土品

Start up

## チャレンジ とやまヒストリー 2024 開催!

埋文では、考古学に触れられるプログラムをたくさん用意しています。  
夏休みの課題にもぴったりです。ぜひ埋文に訪れてみませんか。

### ① 親子で挑戦 ワクワク体験教室

親子で楽しみながら古代のものづくりにチャレンジします。

対象 小学校4～6年生の児童とその保護者

〈メニュー〉

- ・刀鍛冶の体験をしよう…………… 7月25日（困）、7月27日（田）、  
7月30日（凶）
- ・古代の鏡の鑄造を体験しよう…………… 7月31日（困）、8月1日（困）
- ・クルミの垂飾づくりを体験しよう…………… 8月3日（田）、8月6日（凶）
- New**・縄燃りを体験しよう…………… 8月7日（困）
- ・染物を体験しよう…………… 8月8日（困）、8月10日（田）
- ・大型まが玉づくりを体験しよう…………… 8月13日（凶）



(全ての日程で、午前・午後の2回ずつ開催します。事前申込が必要です)

### ② こども考古学講座

対象 小学4～6年生

…………… 7月28日（回）、8月4日（回）、8月11日（回）

(事前申込が必要です)

〈内容(予定)〉

- ・考古学って、発掘調査って何?
- ・富山県の遺跡って?
- ・普段は入れない収蔵庫を探検!
- New**・本物の出土品をさわろう!
- New**・拓本をとろう
- New**・昔の文字を読み書きしよう (公文書館とのコラボ企画)

### ③ 夏休み考古体験コーナー まいぶん研究室

…………… 7月22日（回）～ 8月25日（回）

- ・校下の遺跡や出土品を調べたり、クイズコーナーなど楽しく考古体験ができる特設コーナーを開設します。

(事前申込は不要です)

詳しくは、チラシ、HPでご確認ください。

## 人のうごき

4月1日付での異動をお知らせします。

■転出 社会教育主事 善徳 甚樹 高岡市立中田中学校へ

■転入 主任 宮腰 真央 高岡市立福岡小学校から

# 古写真発掘!—《21》



## ひがしなか え 東中江遺跡

昭和54年（1979年）撮影 南砺市東中江

東中江遺跡は、旧 平村の庄川により形成された標高約380mの河岸段丘上にあります。

昭和53・54（1978・79）年に東中江小学校（現在は「たいらマウンテンスクール」として活用されています）の新校舎の建築に伴って発掘調査を行いました。東中江遺跡は、昭和29（1954）年にも水田化の工事にあたり、同小学校勤務の郷土史家の方が発掘調査した経緯がありました。

昭和53・54年の発掘調査では、縄文時代中期後葉～後期の竪穴住居・炉跡等やヒスイ製の大珠、たくさんの縄文時代中期～晩期の土器・石器や古代・中世の土器が出土しました。

上の写真は、建築中の東中江小学校で、矢印の箇所が昭和54年に調査したところです。昭和53年の調査箇所は既に新校舎の下になっています。

下の写真は、発掘調査の様子です。上が調査区で、手前は、掘り出した土をベルコンで排出している様子です。令和の今となっては、危険な作業の様子に驚きます。

ヒスイ製の大珠は、長さ9cm、幅約4cmの大きさで、南砺市埋蔵文化財センター（南砺市高瀬）で見ることができます。



昭和54年の発掘調査区



東中江遺跡出土の  
ヒスイ製大珠  
（南砺市埋蔵文化財センター所蔵）

### 編集後記

コロナ感染防止のため中止していた組紐作り体験を、5月から再開しています。体験の手順は動画をみていただくことにしているものの、職員としてやり方がわかっていなくてとは、久しぶりにやってみました。組み方は覚えていましたが、最後に別の糸で束ねて縛るやり方がなかなか思い出せず焦りましたが、何とか思い出すことができ、一安心しました。

（担当 青山）

### 富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.167

令和6年6月28日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814  
URL <https://www.pref.toyama.jp/3041/miryokukankou/bunka/bunkazai/maibun/index.html>

